自己評価および外部評価結果

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○基づく運営 ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	昨年、職員研修の中で事業所の理念に触れ、全員で考え理念に基づいた目標を掲げ、日々実践に繋がるように努めている。	理念は、開設時に管理者、職員で考え作成したものであり、いつでも確認できるよう玄関に掲示している。今後更に、この理念を噛み砕くことにより具体的に日々の実践に繋がることを目指し検討している。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	運営推進会議に地域住民の方から参加頂いてる事と、季節の行事(門松作り)においで頂き、事業所の内容や様子を理解してくれている。事業所からは、地域自治会の会合への参加を行なったり、地域の方へ向けた行事を行ない入居者、地域住民共に参加するなど、交流をしている。	ボランティアで、新年の門松作りを披露してくれる等、地域との繋がりができている。また、新興住宅地の中なので、夏の花火大会に向けて町内会の回覧版にチラシを入れたり、直接声掛け等をして気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り、 相談窓口となっている。また、今後は地域 住民の介護予防の為の教室や講座等を事 業所で開催できるよう、地域包括支援セン ター、民生委員等に働きかける予定であ る。		
4		ている	2ヶ月毎に定期的に開催しており、毎回報告や取り組みについて、意見交換を行い、様々なアドバイスや意見を頂戴している。会議の内容については、現場にも伝え、サービスの向上改善に努めている。	運営推進会議には、利用者と利用者家族の参加も多数ある。地域住民の代表や山の手コミュニティー会長等が参加され、取り組み状況の報告や話し合いが行われ、アドバイスをもらっている。そのような関係が行事への取り組みに繋がり、メンバーの意見もサービスの向上に活かされている。また、会議に出席できないメンバーに対しては、会議の記録を送付し情報を伝達共有していただいている。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を運営する中で、状況や疑問点等を伝え、アドバイスを貰うなど連携をとっている。	事業所の実情を報告し、助言や意見等の協力が得られている。また、区のケアマネ部会にも加入し、積極的に連携を図り情報を共有するよう取り組んでいる。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠はせず、入居者に閉塞感を与えないように努めている。	玄関は施錠せず、外に出たい様子のある利 用者の意思や人格を尊重し、話を聞いたり 付き添って散歩するなど、見守りの中での声 掛けと寄り添った対応を大切にしている。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている		高齢者虐待防止関連法の理解を深めるため、内部研修を行なわれ、事業所内で虐待の防止に努めている。また、個別面談を実施し、職員のストレス対応にも配慮している。職員の申し送りを密にすることで、不適切なケアが見過ごされることがないよう努めている。	
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	事業所、管理者は外部の研修を受講し、家 族の相談にのれるようにしている。		
9		家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は随時質問を受けながら説明を行い、理解・納得して頂いた上で署名、捺印して頂いている。		
10	, ,	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ことができるようにしている。また、運営推	運営推進会議に利用者と利用者家族からの参加により、意見や要望等を表せる機会が設けられており、運営に反映できるよう配慮をしている。	

自	外	+ 	自己評価	外部評個	
2	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	•		礼等で、職員から直接意見等を効き、吸い上げるよう努力している。また、管理者は月に一度の本社会議や定期報告にて、代表者に職員の意見等を伝える機会がある。更に、職員から取締役への直接ホットラインを	の意見や要望を聞くよう心掛け、それを代表 者に伝え運営に反映できるシステムが構築	
12		物状沈を把握し、箱子水準、力関時间、やりかい tr 以 久白が向上心な特へて働ける FS時提票	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。また夏季休暇(3日)冬季休暇(3日)を設けている。		
13					
14			者との交流する機会があり、又管埋者は秋		
		と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、家族の意向や本人の気持ち を伺い、安心して暮らせる為の関係作りに 努めている。		

白	外		自己評価	外部評信	
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や不安に思っている事等、聞き取りをしながら関係を築けるよう努めている。		
17		サービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の想いが異なる事もあるが、双 方が安心してサービスを受ける事ができる よう、間に入り調整しながら方向性を見つけ る努力をしている。		
18		暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活を支えるという事を 重視し、本人の出来ること、介助すれば出 来る事を見極め、生活全般に関わる物事に 対し、その方に応じた支援方法を行なって いる。		
19			月に一度、ホームでの様子を伝える手紙を 居室担当より家族宛に送っている。又、居 室担当者を中心に家族と連絡を取り、共に まえていく関係作りをしている	定期的に「ふれあいだより」や事業所での様子を居室担当より家族宛てに送付している。 自宅に帰りたい等、利用者の想いを理解し、 その想いを家族に伝えていくことで本人を支 えていく関係づくりに努めている。	かく伝えることで、本人を支えて行く為の家族との協力関係が深まってく
20			人が訪ねて来た際の他入居者を含めたおもてなし等で、次回も訪れやすい雰囲気作りを大切にしている。また、行事で近くまで外出した際に、懐かしい知人を訪ねたり、自	屋を希望し行き続けている利用者や、知人宛の手紙を出している利用者の為の支援等、一人ひとりの生活習慣を尊重し馴染み	

自	外	-	自己評価	外部評価	
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう	個々の心身の状態や対人関係を観察しながら、時々で間に入るなど、和やかな雰囲気が作れるよう支援している。		
		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	6 o		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	け、思いに添った支援が出来るよう心掛けている。又、家族からも情報や意向を確認	居室担当者を中心に、日々の話しぶりや様子を生活記録に残し、また、家族の意向等も確認しながら、本人本位の暮らし方ができるよう職員間で情報を共有しながら思いや意向の把握に努めている。	
24			入居前の家族、本人への聞き取りや、普段 の会話の中から把握できるよう努めてい る。	入居前の本人、家族からこれまでの暮らしぶりについて、専用アセスメント様式を使って 把握するとともに、入居後についても会話の 中や面会に来られた知人や親戚の方からの 情報が得られた場合は、追加しながら把握 に努めている。	
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人ひとりに目を向け、小さい気付きを積み重ね、情報の共有をし、個々の把握に努めている。		

自	外	T百 日	自己評価	外部評值	
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26			計画作成担当者は、本人、家族、居室担当者から聞き取りを行い、定期及び必要時に 検討会を開催している。	介護計画は3ヶ月毎に、または、半年毎にモニタリングを行い作成している。カンファレンスは定期及び必要時に、本人、家族、居室担当者も参加し、業務日誌、個別の24時間の生活記録等をもとに検討し、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録をし、申し送りも行い、情報の共有をしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の山の手コミュニティーより、イベント等開催の際に優先的に招待して頂き、会場内でも入居者優先で席の手配等を行って頂く等の配慮を受ける事ができた。		
30			受診時に、地域連携手帳を用いてホームでの細かな様子をかかりつけ医に伝達し、適切ね指示を仰ぐなど、連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医受診については 家族が継続して付添い受診を行っている。入 居後に協力医に変更されて往診を受けてい る方や、また、家族からの依頼により職員付 添いで専門医に受診している人等、本人、家 族の状況に応じての支援が継続的に行われ ている。	

自	外		自己評価	外部評值	<u></u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護 を受けられるように支援している	契約している看護師が定期訪問しており、 日頃の様子や状態を把握しやすいよう、専 用の用紙を使い、お互いに情報を共有して いる。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーに情報交換や相談の機会を設けてもらえるようにしている。 入院中はできる限り面会に訪れる事で、安心してもらえるよう配慮している。		
33		でいる	下店前及び必要時には、事業所で出来る事の説明を行なっている。また、日頃より家族と連絡を密にし、心身の状況の変化や日々の様子の共有を行っており、時々においてかかりつけ医との連携がとれるよう努めている。	入居前、事業所の運営規程にある「重度化対応・終末期ケア対応指針」について詳しく説明が行われている。事業所では緊急事態による場合も含め、終末期の介護を行う方針であり、早目の対応が行えるよう話し合われている。日頃、看護師の定期訪問で、専用の用紙に利用者の個別の心身の状況について詳しく記入されており、家族、かかりつけ医と連携できるよう努めている。	
34		い、実践力を身に付けている	署での救急講習を順次受けている。しかしまだ未講習の職員もおり、また繰り返し講習を受ける必要性を感じており、今後も取り組みを継続していきたいと思っている。利用者の急変や事故発生時に備えての研修を	昨年入居者の急変事例が1件あり、マニュアルに沿って関係機関と連携してスムーズな対応が出来た経験を生かして、今後も全職員に実践力が身に付く研修、訓練が実施できるよう取り組んでいる。	

自	外	+ =	自己評価	外部評值	
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)		が、水害時等の災害に対する訓練は行えておらず、今後への課題である。	かめり、励力体制も栄かれている。たか、事業所のまわりは新興住宅地となっており、今のようなところ地域への働きかけば行われていた。	住民参加型の防災訓練の実施に向け、地域との協力体制づくりが望まれる。運営推進会議等で災害対策についても話し合い、地域との協力体制構築の下、対策を諮って行くことが期待される。
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		で1只4なない日来カインで入り心でしている	事未川内での町修で通して、刈心について 毕で去ラた毕針をマカッフル。― ルの学に目	職員間で利用者への対応について話し合って指針をまとめて掲示する等、一人ひとりの利用者の状況に合った言葉かけや対応に努めている。	
37		自己決定できるように働きかけている	入浴後に着衣する衣類を共に選ぶ等、様々 な場面で自己決定出来るよう働きかけてい る。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している			
39			日々の着衣はもちろん、外出の際には身だしなみを整えられるよう支援している。また、化粧や白髪染め等、いつまでも若々しい姿でいることが出来るよう、ご家族にも協力を頂ながら配慮している。		

自	外		自己評価	外部評化	
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		開い及事、万当らんといる	野菜を切る、炒める、和える、盛り付け、配膳等々、こちらからお願いする事が多いが、 入居者様自ら手伝って頂けるようになって きている。一回の食事の準備を複数の入居 者様が関わり行なっている。	入わらわるよう立家 アハス クロに1回 利	献立メニューをホワイトボード等で事前に知らせることで、利用者の「食事の楽しみ」に対する関心がより深まる
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量の チェックは一日を通して行っている。これら を基に、個々に応じて、支援している。		
42			個々の状態を見極め、毎食後、全員に歯磨きの支援を行っている(声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助)又、毎晩義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	が他の天敗か少なくなるよう、本人の動作 や仕草で気付くことや、時間を見て声掛け を行う等、支援を行っている。	入居当初は一人ひとりの排泄パターンがつかめず、トイレ誘導には細かな支援が必要だったが、現在は各自トイレに出向いている。リハビリパンツ使用者も少数となっており、自立にむけた丁寧な支援が実践されている。	
44			朝食時は胚芽押麦を白米に混ぜ食物繊維を多く摂取出来る工夫をしている。又、水分摂取量のチェックは欠かさず行う等、薬剤ばかりに頼る事の無いよう、個々に応じた取り組みを行っている。		

自	外	十 舌 口	自己評価	外部評価	
2	部	块	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一則といるか、ての配用内で恒々の布里	現在、入浴は週2回であり利用者の状況に合わせ、希望を取り入れて楽しめる入浴になるよう取り組んでいる。	
46			基本的に自由に過ごしてもらっている。日々のレクリエーション等も強制することなく、個人の意思を尊重しながら支援を行っている。但し、夜間の睡眠を気持ち良いものにできるよう、昼間の活動への参加促しは欠かさず、本人が自分の意思で参加出来る為の声掛けを工夫している。		
47			居室担当は担当の入居者様の薬剤情報の 把握に努め、変化など有った際は全職員に 発信し、情報の共有を図っている。地域連 携手帳で連携を図っている。		
48		人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、個々の生活歴や日々の様子の観察や、会話の中からヒントを見つけ、楽しみや気分転換が出来るよう、個別に合わせた働きかけを行っている。		
49			その日の天気や個々の気分に応じて外出の支援が出来るよう努力している。散歩や買い物等、気分転換は都度行っている。また、希望に添えるよう、家族に相談したり、事業所の行事として立案するなど協力しながら支援している。	事業所の玄関前のミニ菜園で野菜や花等を育てる作業を職員と一緒に行ったり、また、向かいに公園があるので、時には遊んでいる子供達と交流も図られている。近くにある同じ法人のショートステイ・デイサービスまで散歩し、中に入って交流する機会も設けられている。歩行の自立者が多く、季節によって初詣や花見、果物狩り、温泉入浴、外食等、普段は行けない場所まで出かける外出支援が企画され楽しみとなっている。	

自	夕卜	+ - -	自己評価	外部評個	<u></u>
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			家族より、お小遣いを預かっており、必要な 日用品、衣類等は、外出時自由に買い物が できるよう支援している。		
51			電話の取り扱いが難しい為、電話を取り次 ぐことや、かける為の支援は幾度となく職員 が行っている。手紙の投函や、必要物品の 準備なども支援を行っている。		
		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾については、入居者様の作品展示を含め、派手過ぎず柔らかい雰囲気の物を飾るよう心掛けている。 マーロ サカロがよ	新築の事業所であり、外観も室内も明る〈衛生的である。利用者が生活することによって、使い勝手の悪いところ(トイレの表示と取っ手)等は、工夫して利便性の向上に努めている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソ ファーや畳コーナーがあり、思い思いの場 所で過ごす事ができる。		
54		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	使い慣れた家具や道具を自由に持参しても らっている。	本人、家族の希望により、馴染みの家具や 道具が持ち込まれマイルーム作りがなされ ている。ベットの設置場所は本人の自由であ る。お湯の出る洗面台もあり、義歯の洗浄等 にも使い易い配慮がなされている。クリスマ スには職員が話し合って、部屋で使える必需 品(カレンダー、フエルアルバム等)をプレゼ ントしたり、細かい所に気配りされ本人が居 心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場面場面で洗濯畳み、料理作り、配膳、清掃等、個々の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。		